

情報をわかりやすく、魅力的に伝える

使用教材：「月の起源を探る」（三年）

東京都港区立赤坂中学校教諭
甲斐利恵子



今回は、三年一学期の教材「月の起源を探る」を使った授業をご紹介します。この教材は、理論天文学者・小久保英一郎さんが書かれた説明文で、仮説と検証を重ねて月の起源を探究していく科学者の姿が見える、魅力ある内容です。

私は「情報をわかりやすく、魅力的に伝える」という単元を設定し、「小久保さんになったつもりで、月の起源をわかりやすく生き生きと伝えよう」と子どもたちに投げかけました。

教材研究で

最初にこの教材文を一読したとき、正直なところ「少し難しいな」と感じました。そこで、自分がこの内容をわかりやすく子どもたちに伝えようとしたら、どう説明するだろうと考えました。そして、文章を読み直し、自分の言葉で、教科書の図版を頼りに説明を試みました。すると、内容がスツと頭に入ってきて、この教材がとてもおもしろいものであることがわかりました。

まず、「月」という身近な天体が題材であることが魅力的です。そして、その起源について仮説と検証を繰り返しながら、自分の論を立てていくという科学者のひたむきな姿勢や、「研究は今日も続いている」という終わりのない探究心が垣間見えることが、とてもおもしろいと感じました。また、仮説の検証をコンピュータシミュレーションによって行っているという、最先端の技術のすばらしさも知ることができ、科学的な分野の説明文を読む醍醐味を味わえる教材だと思いました。

そこで、「情報をわかりやすく、魅力的に伝える」という単元を設定し、この教材の内容を自分の言葉で説明させることで、理解を深め、「わかりやすさ」について考えさせたいと思いました。この教材には、図版がたくさん使われているので、図版をA4判のサイズに拡大コピーしてパネルを作り、それを使ってグループごとにプレゼンテーションをさせることにしました。

第一時

単元の目標と学習の流れの確認 教師の音読を聞く

まず単元の目標について確認。これから音読する「月の起源を探る」の内容を理解し、わかりやすく、生き生きと魅力的に伝えられるようになろうと話し、次のような単元の流れを説明しました。

第二・三時

分担を決め、発表の練習をする

本時より発表の練習をします。この教材文は小見出しが付いているので、小見出しごとにグループ内で担当を決めました。グループでの練習に入る前に、最初の小見出し「はじめに」の部分を、わかりやすく魅力的に伝えるにはどうすればよいかを全員で考えました。「はじめに」は導入部分で、聴衆を引き付けるための工夫として、投げかけてみる方法をみんなで考えました。すると、子どもたちからは「最近、月を見上げていますか」「昔から、月にはうさぎがいると言われていますが、みなさんは信じていますか」などの、おもしろい導入が提案されました。

情報を相手にわかりやすく魅力的に伝えるためには、自分がその情報を正確にきちんと理解し、消化できていないといけません。「パネルを使ってスラスラと説明するだけでは、この単元の目標を達成したことにはなりません。生き生きと話して伝えるためには、その情報を深く理解していないければならないですよ」と、強調しました。また、子どもたちには、発表原稿を書か

第一時 音読を聞く。

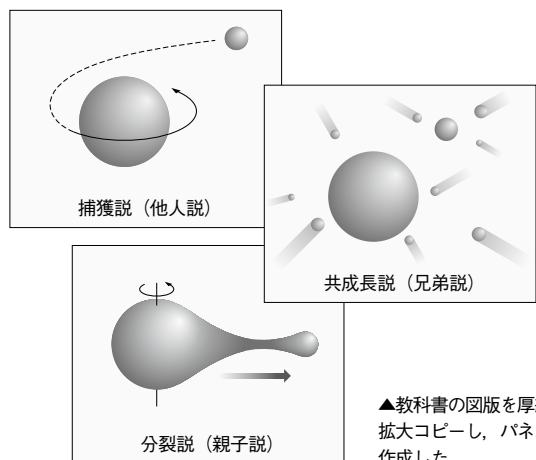
第二・三時 グループに分かれ、グループ内で分担を決め、プレゼンテーションの練習をする。

第四時 グループごとに発表をする。

そして、パネル（下図参照）を見せ、これを使って発表することを告げました。私は同時期に二年生のクラスで「やさしい日本語」（二年一学期教材）を使って、パネルを用いて子どもたちに説明させるという授業を試みていたので、「二年生でも同じようなことをしているんだよ」と、二年生の授業の様子を紹介しました。

パネルを見せたり、他学年の授業の様子などを伝えることで、子どもたちに「自分たちもやってみたい」「なんだかおもしろそうだ」と思わせ、単元の流れを明確にイメージさせ、モチベーションを高めることがねらいです。この日の子どもたちの授業記録を見てみると……

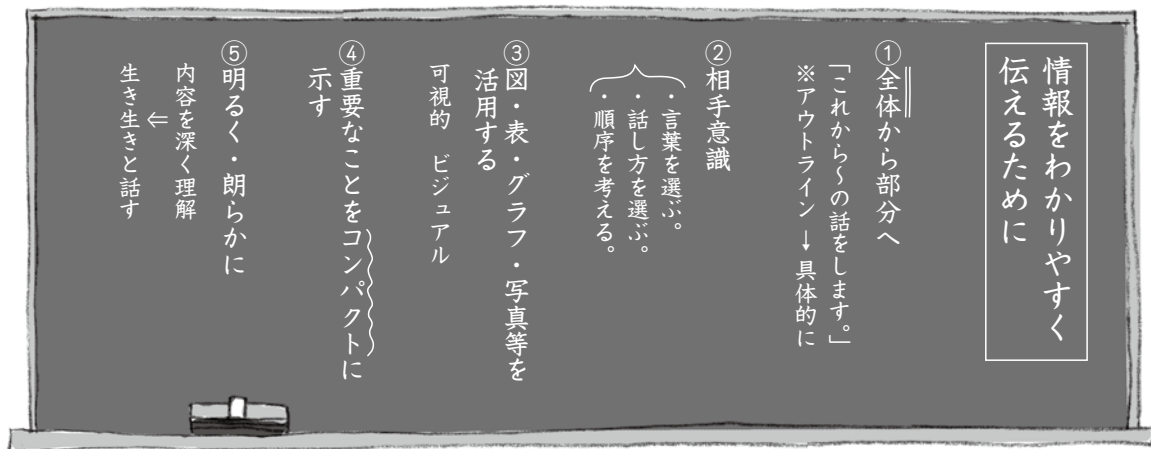
「月の起源を探る」、ちょっと難しかったです。二年生の授業がおもしろそうだったので、私も二年生と同じように、「わかりやすく」伝えることができるようになると思います。



▲教科書の図版を厚紙に拡大コピーし、パネルを作成した。

一読しただけでは、内容を理解しきれませんでした。先生から「一読でだめなら十読すべし！」と言われたので、内容を正確に生き生きと伝えられるよう、これからはがんばって読み深めます。

やはり、一読した後は「内容が難しい」という感想が多かったのですが、「わかりやすく魅力的に伝えられるようにならばいい」という意欲的な感想も多く見られました。



▲第4時の板書

がとても盛り上がりました。最後の十分で
通し練習をさせ、時間を計らせました。一
グループの持ち時間が五分なので、時間内
にうまく収まるよう、調整をさせました。

第四時

グループごとに発表をする

いよいよグループごとのプレゼンテー
ションです。グループに司会者を一人立て
て、その子が「これから〇班の発表を始め
ます。では、『はじめに』を〇〇さん、お
願います」と、挨拶と担当者の紹介をし
ます。

全部で五グループあるので、同じ内容の
発表を五回聞くことになるのですが、グ
ループによって発表のしかたがさまざま
だったので、全く飽きることがなく、とて
も楽しい時間でした。

例えば、あるグループは、「分裂説（親
子説）」の説明のときに、一人の子どもが
ぐるぐるとその場で回り、もう一人の子ど
もが「このように地球が高速で自転したた
め、その一部分がちぎれて月ができました
」と説明しました。すると、「もっと高
速で回転しないとダメだよ！」と、回って

いる子に突っ込みが入り、教室が笑いに包
まれました。また、「巨大衝突説」を説明
するときに、「ここに地球がありますよね。
ここに火星ほどの大きさの天体がドーンと
ぶつかるわけです。すると、細かい粒子が
ウワーツと飛び散るんですね」と、擬音語
を入れながら身振り手振りで、楽しく説明
するグループもありました。他にも、自作
のパネルを使って説明するグループもあり、
それぞれに工夫して、生き生きと発表する
ことができていました。

すべてのグループの発表が終わった後、



各グループの発表のよかったところを挙げ
ながら、単元のまとめを板書（上図参照）
し、次の①～⑤について説明をしました。

* * *

情報をわかりやすく伝えるために

①全体から部分へ

「これから大きく三つの話をします」と
か「これからお話しするのは、私の春休みの
思い出です」などと、まず全体を示して
から具体的な話をすると、聞き手がぐっと
情報を受け取りやすくなる。小見出しを活
用するとよい。

②相手意識

例えば、伝える相手が小学生だったら
「月は特異な天体だ」と話してもわからな
いかもしれないので、他の言葉に置き換え
る必要が出てくる。相手への意識をもち、
言葉を選んだり、話し方や話す順番を考え
たりすることが大事。相手がどんな情報を
もっている人で、どんな情報を求めている
のか考えて話すといよい。

③図・表・グラフ・写真等を活用する

可視的なものを使って説明すると、相手
に情報が伝わりやすい。

④重要なことをコンパクトに話す

重要だからといって、ダラダラ長く話す

とかえってわかりにくくなる。大事なこと
こそ、印象に残るようにコンパクトに話す
とよい。

⑤明るく・朗らかに

人に何かを伝えるときの基本姿勢。内容
を正確に理解し、自分の言葉で語れるよう
になっていることが前提である。

* * *

この単元では、「魅力的に生き生きと」
話すことを大事にしました。大人になると
プレゼンテーションをする機会が出てきま
すが、ただ原稿を読み上げているだけのよ
うな発表では、聞き手には伝わりにくいも
のです。生き生きとした魅力的なプレゼン
テーションをするには、その内容をきちん
と理解して頭に入れ、わかりやすく伝えよ
うという意識をもたなければなりません。
この教材は、そういう姿勢を養うためにも
とても有効だと思います。小見出しが付い
ているので全体の構造が捉えやすく、また
図版が多用されているのでプレゼンテー
ションのイメージがもちやすいからです。
そして、何より内容がとても魅力的で、読
めば読むほどおもしろい。子どもたちと
いっしょに読み深めることのできる教材だ
と思います。